

ピースフェア 2023 を開いて

千葉市空襲と戦争を語る会代表 千葉通子

ピースフェアが10回を数えることは、スタッフの皆さんは勿論のこと多くの関心のある方々に支えられてのことです。あの戦争を知る人は1割と言われ、平和を壊さない運動は今まで以上に期待されていると思います。それだけに市民の自主的なピースフェア開催の意義は非常に大きなものがあると思います。

私は1944年に千葉市院内国民学校へ入学、名札には血液型が。国語の教科書には「ススめ ススめ ヘイタイ ススめ」と。授業中に空襲警報のサイレン、急いで教科書、ノートをランドセルに押し込み、駆け足で校庭に集合し、町内毎に6年生を先頭に、途中でB29の爆音が近づくと、目・耳・鼻を両手の指で塞ぎ、その場で道に伏せたのです。

1945年7月7日の空襲で学校は全焼。授業が始まったのは2学期。軍都千葉の戦後は、残された軍の施設が学校の教室に。稲毛区作草部の気球隊格納庫は教室に。高い高い天井にベニヤ板で仕切った教室。授業は天井に筒抜け。先生は苦勞したと思います。時には、あおぞら教室も。

1950年第4中（椿森中）へ入学。轟町の陸軍兵器廠の倉庫。天井には大きな鉤型の鎖があちこちに下がっていました。入り口は1間（1.8m）もある角材できている鉄の戸で一人では開けられない。ガラスなどない。北風がそのまま吹き抜ける。グラウンドもなかった。登下校に兵器に付着している真鍮や鉛を拾い、小遣い稼ぎをしていた男子生徒。不発弾が爆発して手首をなくした同級生もいました。貧しい家庭ではコメの弁当が作れないので、細いサツマイモを新聞紙で隠して食べていた生徒もいました。

広島では、（原爆はアメリカが投下したので、反米になるような）平和教育が制限されていたと聞きます。しかし、今こそ、その必要性は大きくなっています。学校の先生も親もみんな戦後生まれ。

今年1月、千葉デザイナー学院に出前授業を。「千葉に空襲があったとは知らなかった」と発言する学生。その学院の学生たちに、今度は、ピースフェアの展示で、素晴らしい協力をいただいたことは私たちに大きく励ましてくれました。